

EUSI メールマガジン Vol. 040

「EUの共同行動計画をどう読むか? --第7次環境行動計画によせて」(臼井陽一郎)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 025】

「EUの共同行動計画をどう読むか? --第7次環境行動計画によせて」

臼井陽一郎 (新潟国際情報大学情報文化学部教授)

昨年11月、ようやく第7次環境行動計画 (Decision No.1386/2013/EU) が採択された。直近の第6次はとうに期限が切れており、まさにようやく、であった。この計画、2013年から20年までの環境戦略を定めたものであるが、2050年に到来しているはずのEU市民社会を構想した文書でもあり、低炭素経済をベースに誰一人排除しない包摂社会をイメージしている。それはいわば、ヨーロッパ統合の約束の地 (a promised land) を表象した壮大なEUサクセス・ストーリーでもある。

ここ数年のユーロ危機で嫌というほど思い知らされたように、EUの決定にはすこぶる時間がかかる。ただでさえEU固有の複雑な機関決定手続きを経なければならぬのに加え(超国家機関と政府間機関が協働するこの手続きには、<共同体方式>という美しい名称が付与されている)、さまざまな方面の実に多くの人々に意見表明の機会が与えられる(利害当事者協議の設置がEUの常であり、その徹底はプライドでもある)。そのため、手続き全体の進み具合はまさしく牛歩のスピードとなる。

けれども、だからこそというべきか、一度決定にいたれば、それは加盟28カ国の政府間の、またヨーロッパ社会各層間の、強くソリッドな合意となる。とすれば、第7次環境行動計画に投影された美しきイメージは、ただのキレイゴトではすまされない。

EUとはとりもなおさず、加盟国に同一歩調を取らせる媒介的役割を期待された制度複合体である。が、それはいまでは28カ国にもおよぶ先進国の集合体である。一つひとつの加盟国にはそれぞれの重厚な歴史に裏打ちされた法秩序と政治慣行が、まさに深く太く根を張っている。加盟国間の共同行動には、尋常でない複合的調整が必要になる。

EUはこれを、独自の法秩序でもって行おうとする。すでに半世紀を越える<法を通じた統合>の実績をベースに、EUは通常の国際組織とは明確に一線を画す高度な法秩序を発展させた。EUの国家と見紛うほどに広範な政策分野は、EU法により束ねられる。共同行動は加盟国法に優位する--はずの--EU法に裏づけられ、EU司法裁判所の解釈に支えられる。28カ国プラスアルファの法・政治システムがヨーロッパ的規範を織り成し、それでもって加盟国の各種公共政策を方向づけようとするのである。必要とされる調整は加盟国間の行政システム

の擦り合わせにとどまらない。個々の政策領域間の整合性も担保されねばならない。途方もなく複雑で微妙な政策設計が要請される。

したがってEUの場合、行動計画がただのクレイゴトに終始することは許されない。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol25.pdf>

【EUSI イベントご案内】

国際経済シンポジウム「EU-Japan, New Strategic Partnership for Future」

日時: 2014年2月27日(木) 18:30-20:15

場所: 如水会館 スターホール (東京都千代田区一ツ橋2丁目1-1)

主催: EUSI, HEC Paris, クレディ・アグリコル銀行

後援: 一橋大学 ICS, EBC

言語: 日英同時通訳

申込: 以下、EUSI HP をご参照ください

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20140227eu_japan_spa.html

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (EUSI 執行委員・一橋大学大学院法学研究科教授)

「リスボン条約後の TRIPs 協定に関する EU の権限」

『国際商事法務』Vol. 42, No. 2 (2014年2月) 298-303 頁

林秀毅 (EUSI 主任研究員・日本経済研究センター特任研究員)

「日本企業の欧州戦略はどう変化するか ケーススタディにみる3つのポイント」

『欧州経済・金融レポート』(日本経済研究センター)(2014年2月10日)

<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi2/index592.html>

【EU に関するニュース】

2014年1月1日 ラトビア、ユーロ導入正式開始。ユーロ圏は18カ国・3億3300万人に拡大へ

2014年1月1日 ギリシャ、EU 議長国に就任。1981年 EC 加盟以来、2003年前期に続いて5度目

2014年1月1日 EU、ソマリア沖海賊対策コンタクト・グループ(CGPCS)議長職に就任。任期は1年間

2014年1月1日 2007年 EU 加盟国のブルガリア・ルーマニア、域内での労働者自由移動が完全解禁

2014年1月2日 アシュトン EU 上級代表、南スーダン紛争解決のため関係者協議を促す声明

2014年1月7日 EU 理事会、アスムセン ECB 専務理事の後任にラウテンシュレーガー独連銀前副総裁の勧告を決議

2014年1月8日 Eurostat、前年11月失業率はユーロ圏17カ国で12.1%、EU28カ国で10.9%と過去最悪水準維持

2014年1月9日 アシュトン EU 上級代表、バングラデシュ総選挙で野党ボイコット・低投票率に憂慮の声明

2014年1月9日 欧州委員会、ユーロ圏に関する四半期報告書発表。今後10年の潜在成長率1%と10年前より半減

2014年1月9日 ECB 定例政策委員会、政策金利据え置き決定。低金利維持のフォワードガイダンス強化を強調

2014年1月9-10日 E3+3 イラン核協議、昨年11月合意の共同行動計画の第1段階実施内容合意。12日各国承認

2014年1月11日 アシュトン EU 上級代表、イスラエルの入植地拡大計画は対パレスチナ和平を損なうと憂慮

2014年1月11日 ファン＝ロンバイ常任議長、シャロン元イスラエル首相逝去に哀悼の声明

- 2014年1月13日 ECB、新10ユーロ紙幣を発表。5ユーロ札に続く、新ユーロ紙幣「エウロペ」シリーズの第2弾
- 2014年1月14日 欧州委員会、シリア危機に対し1.65億ユーロの追加支援の公約発表。累計総額で110億ユーロ
- 2014年1月14日 ギリシャ政府、2013年財政収支は8億ユーロの黒字見通し発表、金融支援条件の黒字化へ前進
- 2014年1月14日 Eurostat、前年11月鉱工業生産はユーロ圏17カ国で前月比1.8%増、EU28カ国で1.5%増
- 2014年1月14日 バルネエ欧州委員(仏)、フィガロ紙インタビューで、次期欧州委員長出馬の用意があると表明
- 2014年1月15日 欧州議会、EUの公共調達・利権契約に関する新規定を採択。公平な競争・環境配慮など改善
- 2014年1月15日 Eurostat、前年11月貿易収支は、ユーロ圏17カ国で171億ユーロの黒字、EU28カ国で34億黒字
- 2014年1月16日 欧州自動車工業会、前年12月新車登録台数はEU全域で94.8万台と4カ月続伸。通年では前年減
- 2014年1月16日 英 YouGov 社世論調査、反EU政党の英国独立党が2位(26%)。1位労働党32%、3位保守党25%
- 2014年1月16日 中国商務部、2013年外国対中国投資(FDI)発表。EU28カ国からは前年比18.1%増
- 2014年1月17日 アシュトン EU 上級代表、前日のウクライナ議会のデモ規制法可決は民主主義侵害と懸念の声明
- 2014年1月17日 欧州委員会、オバマ大統領の米 NSA(国家安全保障局)情報収集活動見直し歓迎、信頼回復求む
- 2014年1月18日 アシュトン EU 上級代表、シリア反体制派国民連合のモンテレー国際和平会合参加を歓迎
- 2014年1月18日 EU 海軍部隊(EU NAVFOR)、自衛隊と協力シリア湾の石油運搬船の海賊攻撃撃退、容疑者逮捕
- 2014年1月19日 アシュトン EU 上級代表、エジプト憲法改正国民投票期間中の暴力に遺憾、今後の民主化を祈念
- 2014年1月19日 英 ComRes 社世論調査、反EU政党の英国独立党が1位(27%)。2位労働党26%、3位保守党25%
- 2014年1月20日 EU 外務理事会、対イラン制裁の一部中断、中央アフリカ国際支援ミッション派遣などで合意
- 2014年1月21日 EUとセルビアの第1回加盟交渉(閣僚級)開催。交渉枠組やEUアキ・コミュニテール遵守を協議
- 2014年1月21日 ドゥグヒト通商担当欧州委員、TTIP(環大西洋貿易投資連携協定)の投資項目意見公募を決定
- 2014年1月21-23日 EU・中国投資協定第1回交渉、北京で開催
- 2014年1月22日 日・EU 外相会談、ジュネーブで開催。日・EU EPA 及び SPA 交渉やシリア・イラン情勢など協議
- 2014年1月22日 欧州委員会、域内の産業発展の包括的政策文書「欧州産業ルネッサンスに向けて」を採択
- 2014年1月22日 欧州委員会、「2030年気候・エネルギー政策枠組」提出。温室効果ガス1990年比40%減など柱
- 2014年1月22日 バローゾ委員長、ウクライナ反政府デモで初の死者が出たことへの遺憾と暴力への非難の声明
- 2014年1月22日 Eurostat、2013年第3四半期のユーロ圏17カ国政府債務残高は8.8420兆ユーロで6年ぶりに減少
- 2014年1月22-24日 日・EU SPA 交渉第4回会合、ブリュッセルで開催
- 2014年1月23日 スペイン、欧州委員会・ECB・IMF トロイカによる金融支援完了。アイルランドに続き2カ国目
- 2014年1月23日 バローゾ委員長、ウクライナ大統領と電話会談。野党とのハイレベル対話の即刻開始などを要求
- 2014年1月23日 バローゾ委員長・アシュトン上級代表、ロウハニ大統領とイラン核問題の長期的解決など会談
- 2014年1月23日 アシュトン EU 上級代表、米テキサス州での死刑執行に対する遺憾と死刑廃止を求める声明

- 2014年1月23日 アシュトン EU 上級代表、タイ政府とデモの対立激化・非常事態宣言発令に対し平和的解決要請
- 2014年1月23日 アシュトン EU 上級代表、南スーダンで政府と反政府勢力の間の停戦合意成立に対し歓迎の声明
- 2014年1月24日 アシュトン EU 上級代表、エジプト・カイロ県警察本部などでの連続爆破テロに対し非難声明
- 2014年1月24日 EU、グリーン製品の貿易自由化に向けた WTO 交渉開始を発表。グリーン製品の関税撤廃を目指す
- 2014年1月24日 ファン＝ロンパイ常任議長、国際俳句交流協会創立 25 周年記念シンポジウムで講演
- 2014年1月24-25日 フィーレ欧州委員、ウクライナ訪問。大統領や野党各党党首・市民団体代表らと広範に会談
- 2014年1月27日 楊潔チ中国国務委員、アシュトン EU 上級代表と会談。EU・中国間の FTA を検討すべきと認識示す
- 2014年1月27日 ラウテンシュレーガー独連銀前副総裁、アスムセンの後任で ECB 専務理事に就任。任期 8 年
- 2014年1月27日 欧州委員会、20 の EU 加盟国で人種差別や人道罪などを取り締まる国内法規不備との報告書発表
- 2014年1月27日 欧州委員会、TTIP(環大西洋貿易投資連携協定)交渉分野に関する特別諮問グループを創設
- 2014年1月27-31日 日・EU EPA 交渉第 4 回会合。非関税措置・投資・公共調達・知財・競争政策など幅広く議論
- 2014年1月28日 EU・ロシア定期首脳協議。テロとの戦いに関する協力深化謳うも、ウクライナ問題打開できず
- 2014年1月28日 EU 理事会、クロアチアに対して過剰財政赤字是正手続を開始。債務規模が EU 基準を満たさず
- 2014年1月28日 EU 政治・安保委員会、中央アフリカ EU 軍事ミッション(EUFOR RCA)司令官にポンティエ仏少将
- 2014年1月28日 タヤーニ欧州副委員長、ガリレオ衛星航法システムは順調に進めば年末にサービス開始と発表
- 2014年1月28日 アシュトン EU 上級代表、ウクライナ訪問
- 2014年1月29日 ファン＝ロンパイ常任議長、親欧州派のソボトカ社会民主党党首のチェコ新首相就任に祝意
- 2014年1月29日 欧州委員会、大手銀行の高リスク自己勘定取引禁止の新規則提案。EU 版「ボルカー・ルール」
- 2014年1月30日 アシュトン EU 上級代表、2月2日のタイ総選挙を控え、民主主義の尊重や政治対話を求める声明
- 2014年1月31日 アシュトン EU 上級代表、ザリフ・イラン外相と会談、2月18日に E3+3 イラン核協議開始で合意
- 2014年1月31日 アシュトン EU 上級代表、ミュンヘンでウクライナ野党代表と会談。同国内の拷問や強権を非難
- 2014年1月31日 EU、空港内の液体検査規制緩和。域外購入の酒類など乗継で入る場合検査対象に(従来は没収)

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは新潟国際情報大学の臼井陽一郎教授にお願いしました。臼井教授は従来から EU 政治をエコロジカル・デモクラシー、マルチレベルガバナンスの規範力など、ユニークな切り口で研究されています。昨年秋、一橋大学大学院で行われた「EU 論」の集中講義では、EU における市民、民主主義のありかたについて、熱く語って頂きました。また EUSI では、駐日欧州連合代表部との協力しつつ、新潟を含む東日本の EU 研究者とのネットワーク作りを進めてきました。今回の巻頭エッセイは、このような協力関係の成果の一つであるとも考えています。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

皆さんは「V4」と言えば何のことだか分かりますか?

実はこれは「ヴィシェグラード4カ国」のことで、すなわち中欧のポーランド・チェコ・スロバキア・ハンガリーの4カ国のことを指します。「ヴィシェグラード」とはハンガリーの都市の名前で、人口わずか2000人弱という小さな街ですが、首都ブダペストの北すぐ近郊にあり、スロバキアとの国境近くの街です。1991年にここで中欧3カ国(当時チェコとスロバキアの分離前)の地域機構が締結され、後に「V4」と呼ばれるようになりました。当時は冷戦終結直後のことで、4カ国は自由貿易協定締結や欧州統合の促進に向けて、様々な協力を進めてゆくことになり、2004年の第5次拡大でEUに同時に加盟しています。今年2014年はそんな「V4+日本」交流年にあたり、様々な交流が予定されています。元来この地域は音楽や芸術やスポーツなど文化的水準が高く、日本や現地4カ国内で、クラシックコンサートなど色々な催し物が予定されています。また欧州でいえば、今年「日本・スイス国交樹立150周年」の年にも当たり、スイスの写真・映画・音楽の鑑賞会や、人道法に関する知的交流などが予定されています。

また昨年からの「日本・スペイン交流400周年」は、今年も依然として続いています。昨年は皇太子がスペインを訪問するなど、両国間で多様な知的・文化交流がなされました。

ご関心のある方は、ぜひ身近で行われている欧州の催し物をチェックしてみませんか。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
